HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	生体反應側よりみた尿中生機物質の消長について：第16報 尿量と燐酸値の相關について
Author(s)	西風, 脩; 齋藤, 辰次
Citation	結核の研究, 1, 98-99
Issue Date	1954-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/26551
Type	bulletin (article)
File Information	1_P98-99.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

生体反應側よりみた尿中生機物質の消長について

第16報　尿量と燐酸値の相關について*

西風　脩・齋藤辰次
(北海道大学結核研究所化学部門)

個体の生きている限り水分，塩類，エネルギー代謝は常にいとなまれているがその中水分，塩類代謝の異常は他のそれ比し生命維持により重大な影響を及ぼすであろう。必要なエネルギーを得るためにその代謝の多少の異常をともなおうとも，生体はそれによつて産出された不完全酸化物（中間代謝産物）を適当に体外に排出することにより内部環境の恒常保持が可能である。

“生体は好ましからぬ環境におかれれば，おかれるほど，その恒常維持にやつきになる”。

以上のことを念頭におき結核患者の尿量[1,2]に目をむけた場合，“その重症のものにおいてさえ正常人のそれと比較しかわりないのを知つたとき，私らは個体の生命維持の妙味に対し，敬虔な気持をいだかざるを得ない。私らは変化なきデーターの中にも貴重にして重大な事実のひそんでいるのをみのがしてはならない”。

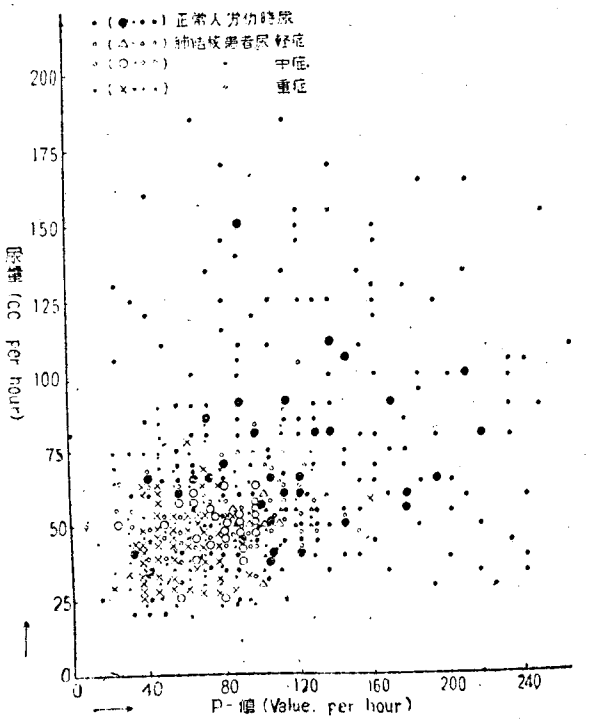
今回は尿量と燐酸値の相関について報告する。

實驗條件並びに成績

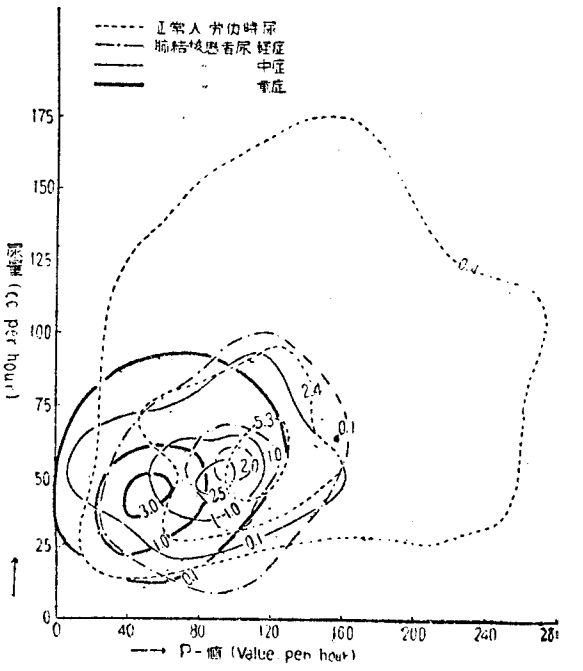
採尿条件は前報[1-12]と全く同様であり，同一サンプルにつき分析を行つた。

燐酸値の測定は西風，岩田らの方法[1-12]により，かつそれら尿量，燐酸値はそれぞれ単位時間当り量 cc Per hour をもつて表示した。

図1はその原図であり，×印は肺結核患者重症群，○印は中等のそれ，△印は軽症のそれであり，それらは全尿を採集し測定した。また●印は正常人労働者勤勉時尿[5]であり，これは逐時的に採集分析した。図2はそれを over lapping 法に従い統計的に等頻度曲線をもとめたものである



第 1 図



第 2 図

る。

1) 正常人において尿量，燐酸値両者とも標本分散の大きいのは結核症における如く全日尿を採集することなく，追時尿を採集したためもあろうが。

2) いずれにしても，それらの平均は尿量特に燐酸値において結核症のそれに比して大であることは確かであろう。

3) その場合燐酸値の変動は尿量のそれに比し大なることは誠に興味がある。

4) 尿量の燐酸値の相関はまことにすくないものといつて差支えなかろうが，かく両者に相関がすくないことは，それらがそれぞれ違つた重要なる生体反応的意義を有することを示し，尿量は水分塩類代謝に，燐酸値はエネルギー代謝に特に関係することを意味するであろう。

文　献

1) 平池正・佐々木裕雄：醫學と生物學，27(3)：102–104，昭 28.
2) 岩田敎榮・中山雄二：醫學と生物學，28(2)：66–68，昭 28.
3) 中山雄二・野崎德治・齋藤辰次：醫學と生物學，28(2)：68–71，昭 28.
4) 中山雄二・野崎德治・平池正：醫學と生物學，26(3)：94–97，昭 28.
5) 岩田敎榮・齋藤辰次：醫學と生物學，26(1)：1–4，昭 28.
6) 西風俯・佐々木裕雄：醫學と生物學，26(1)：4–7，昭 28.
7) 岩田敎榮・齋藤辰次：醫學と生物學，25(4)：173–176，昭 27.
8) 西風俯・佐々木裕雄：醫學と生物學，25(4)：176–179，昭 27.
9) 野崎德治・中山雄二：醫學と生物學，25(4)：189–192，昭 27.
10) 岩田敎榮・西風俯：醫學と生物學，26(5)：192–196，昭 28.
11) 平池正・中川善治：醫學と生物學，25(4)：199–201，昭 27.
12) 齋藤辰次・中川善治：醫學と生物學，27(3)：99–101，昭 28.
13) 西風俯：醫學と生物學，27(6)：240–243，昭 28.

(受付：昭和 28 年 4 月 17 日)

* 本論文は醫學と生物學第28卷第5號に發表した。